

# KDKニュース



## KDK三つの原則

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

## 国内開拓伝道会

発行人 泉田 昭

〒352-0011

埼玉県新座市野火止4の8の28

電話 048-202-1500

FAX 048-202-1501

振替 00140-6-57493

No.118 2017年 3月

## 「日本の教会は目下開拓伝道真っ最中」

KDK委員 中島 秀一



「強くあれ。雄々しくあれ。わたしは彼らに与え、その先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならぬからだ。」(ヨシユア一・上)

今年には宗教改革五百周年記念の年です。ルーテル派教会では早くからそのことを

念頭において、様々な記念行事が用意されています。その他の教派でも同じプロテスタントの流れを汲むものとして、ルター、カルヴィンなどの改革の精神を確認継承すると共に、それぞれの立場において、日本宣教の前進のために意義深い年としたいものです。

かつては「後進国」と呼ばれた国々が、いつの頃からか。「発展途上国」と呼ばれるようになりまし。それらの中にはアフリカやアジアの国々が含まれていましたが、最近、東南アジアの国々の経済が発展しつつあることは喜ばしいことです。今や世界はITの著しい発展に伴い政治、経済は言うに及ばず、あらゆる分野において、情報を共有し、連帯を強め、協力して行かなければならない時代になりました。そうした潮流に逆らうようにして「ファースト主義」が台頭してきました。時代が今後どういう方向に向かうかは分かりませんが、ただ主の御旨がなるように祈るばかりです。

わが国プロテスタント教会は今年宣教百五十八年を迎えました。宗教改革五百年から見ればその歴史は約三分の一です。初代教会という山上から見れば、ようやく一合目の辿り着こうとしている所です。そうした状況の中で、「開拓も大切だが、今ある教会

の維持、保持はもっと喫緊の課題だ。」「苦闘している教会、牧師を放って置いて、新しい教会はない。」という声が聞こえてきます。「国内開拓伝道会」の一員である筆者自身も、すでにこの働きの使命は終わったのではないか、自虐的に「国内開拓伝道会」に改名すべきではないかとさえ、正直思いました。そのとき、冒頭の聖句や「収穫は多いが、働き手が少ない」(マタイ九・三十七)、「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」(ヨハネ四・三十五)などのお言葉が与えられました。少ない一%の信者に目を向けるのではなく、多い九九%の未信者に目を向けることが、今、私たちに求められているのではないかと。そこで、はたと思いつきました。「わが国は宣教において発展途上国なんだ!」、「日本のすべての教会は開拓伝道真っ最中の教会なんだ!」、「日本のすべての牧師は開拓伝道者なんだ!」と。

第二〇回「開拓伝道セミナー」が別項のごとく開催されます。当初、「国内開拓伝道会」から支援された牧師・伝道者のためのセミナーでしたが、いつの頃からか、その人気が各方面に伝えられ、最近はお給者だけでなく教派を越えているような方々が参加しておられます。その秘密の一つが、超教派の集会であるため、参加者の間に上下関係や緊張関係が全くなく、袴を脱いで、くつろげるからではないでしょうか。教会伝道の現場からしばし離れて、リフレッシュの時を持たれたらいかがですか。僅か二日間ですが、主講師の講演を中心に据えながら、主にある者として互いに祈り、交わりを深め、そして日本宣教についてのビジョンを熱く語り合おうではありませんか。皆様方のご参加を心からお待ちいたしております。

(荻窪栄光教会担任牧師)